

中 部

17 団体



石川県立七尾東雲高等学校

能登ちゃべちゃべ隊

能登の里山から繋がる地域との連携活動

棚田の景観保全のため、森の生態系を破壊するような竹の伐採や除草作業により美観を確保。世界農業遺産でもある能登半島で、地域と共に棚田の風景を守っていく。今後は文化的行事とも絡めつつ、棚田の保全に取り組んでいく。



長野県松本工業高等学校

電子工学部IoT班

地域のインフラ維持問題におけるIoTの活用による持続的発展

IoTによるインフラ維持管理の効率的運用による環境負荷の減少を目的とする。橋梁の交通量を把握するセンサーを製作し、安価にデータを取得したのち、それを視覚化することで人々に議論の場を提供する。今後はWebによる発信も目指す。



富山県立中央農業高等学校

小動物研究班

とってもかわいい獣害対策 ～地域の環境保全をめざして～

過疎化の影響で獣害や耕作放棄地が増加している富山市神通峡地域で、サルを追い払うモンキードッグや人工飼料を与えず耕作放棄地の雑草を食料とするヤギを活用した環境保全に取り組む。本活動を基に、さらに地域での獣害対策をネットワーク化する。



石川県立津幡高等学校

園芸部

伝統と文化を紡ぐ養蚕復活プロジェクト

養蚕学校がルーツである本校の特色を活かし、地域の特産品や伝統品の生産・商品化を行う。蚕の住処である桑の苗木植樹や蚕飼育セットを活用した養蚕の体験学習を通して、地域の諸団体と連携しつつ、養蚕業の復活に向け取り組む。



長野県飯田OIDE長姫高等学校

コンピュータ制御部

地球を守り続ける高校戦隊

ローカルヒーロー「テックレンジャー」を活用し、大小合わせて20回以上の活動を通じ、地域と高校生の交流を図っている。ヒーローショーで地球環境保護を訴える、家庭廃材を活用した工作教室の実施など、子どもたちへの啓発を中心に、様々な活動を行っている。



岐阜県立岐山高等学校

生物部

カワニナを通して考える地域の生態系

放流により、岐阜市内の河川に定着した外来カワニナの分析を行い、その研究結果を地元へ発信することで、地域の生態系を保全する。各種シンポジウムで研究発表を行った実績により、今年度は2つの小学校から出前授業の依頼を受けた。



岐阜県立岐阜工業高等学校

化学研究部

いやな未来を消すけしゴム ～笑顔の輪を広める環境活動～

工業高校の特色を活かし、エコ製品開発や環境調査、またエコ製品づくりの普及啓発を行う。活動に必要なエネルギーは、ソーラーパネルを設置することにより太陽光エネルギーでまかなっている。先輩たちの活動を発展継続させることで、地元の信頼を得られた。



岐阜県立不破高等学校

自然科学部 野生動物調査班

目指せ！人とシカが共存できる里山づくりI

農林被害が懸念されるシカの増加に際し、シカの生息状況を調査することで、人とシカの共存を目的とする。シカの胃内容物調査や赤外線カメラを使用した撮影により得られた結果について、大学の小学生も参加の中でアドバイスをもらうなど、連携体制も広がった。



愛知県立時習館高等学校

SSH生物部

三河湾の環境調査 part2

三河湾の赤潮発生や魚介類の大量死を解決するため環境調査を行った。問題の解決には干潟の保全が大切であるが、このことを普及啓発する手段として発表会での事例紹介やポスターの作成、海岸での清掃を行った。今後は農業廃水と海洋環境との関連を調査する。



学校法人桜丘学園 桜丘高等学校

桜丘高等学校中高一貫コース

朝倉川からフィリピンへ

環境科学の総合学習の一環で、フィリピンでの植林活動体験や地元朝倉川の水质調査、また朝倉川を舞台に、自然と人と共生をテーマにしたオリジナルミュージカルを制作、公演。地元の小学生も参加し、地域に環境保全の意識を広めることができた。



愛知県立知立東高等学校

自然科学部

猿渡川の環境と生きもののかかわり

猿渡川の外来種調査を行い、在来種がどのような状況にあり、人間活動が生態系にどのような影響を与えているかを発信する。生物の調査と並行し、すぐろく形式の啓発ツールも活用した。今後はさらに小中学校への出前授業を行い、より積極的な発信を行っていく。



愛知県立南陽高等学校

Nanyo Company部

COOL CHOICEで賢い選択 ～フェアトレード、カーボン・オフセットを活用した環境貢献活動～

フェアトレードで貧困問題にアプローチし、カーボン・オフセットの仕組みを導入することで環境への貢献を目指す。木曽町の森林由来J-クレジットにより温室効果ガスの排出を埋め合わせることで、地元への貢献とともに温室効果ガスの削減に取り組んだ。



愛知県立愛知商業高等学校

ユネスコクラブ

倫理的消費で共創する未来へ

人や環境に配慮した消費行動である倫理的消費を発信するため、日本人の消費行動を分析した。地域経済を応援するようなツアーの企画や、無農薬・地産地消をキーワードにした親子でのエシカルキッチンイベントの企画を行い、高いアンケート結果を得た。

